

介護を考える会とのタウンミーティング

2019.10.28（月）13：30～15：00

ふれあいプラザ 2階 研修室

○ 参加者 能美市介護を考える会員 12名

○ タウンミーティング議事録

【活動内容の説明】（会長、役員2名より）

- ・ 介護を考える会は、平成4年に3名で介護者の会を発足した。平成22年にほっとあんしんサロンを開始した。平成26年に能美市介護を考える会に改称し、平成27年に知事表彰を頂いた。そして令和元年に会の愛称を「菜の花の会」に決定した。菜の花の花言葉は快活や明るさである。
- ・ 以前は、介護に対する偏見が多かった。
- ・ 介護することで培ってきた力を社会へ還元すること、介護を卒業した方の知恵や力を活かすため何をしたらいいのかを考えて活動してきた。
- ・ 社会福祉協議会から電話相談の委託を受けてやっていたが、相談は電話だけでは話きれないため、それに替わるものとして、ピアカウンセリングの技術を活かして対面で話し合ったらよいと考えて、ほっとあんしんサロンを始めた。10名ほどで運営している。
- ・ 会員のために、在宅介護の基本的介助の実技研修や調理実習などの研修、介護者の支援活動、健康保持のための実習などを実施している。
- ・ 持続的活動に向けて、会員の減少が課題となっている。

【市長市政方針説明】

能美市の2019年度の予算は一般会計で225億円。特別会計も含めた総額は408億円。人口は4月1日現在で50,053人。これまで10月や11月に5万人を超えたことはあったが、毎年3月になると北陸先端科学技術大学院大学の学生が卒業され、4月1日は4万人台でスタートしていた。今年は初めて5万人を超えてスタートした。昨年1年間で132人増えている。特に増えているのは外国人で、4月1日で1,318人。1年間で218人増えていて、10月1日現在で1,430人になっている。今一番多いのがベトナム人で約500人。2番目が中国人。石川県内には19市町があり、人口当たりの外国人が住んでいる比率は能美市が一位である。

人口は増えているが、人口が増える要因は自然増と社会増の二つがある。亡くなる方よりも生まれる赤ちゃんの数が多いと自然増になる。人口が増えている能美市といえども、生まれてくる赤ちゃんの数より亡くなる方の数が多いというのが実態で、一昨年と比較すると昨年は生まれてくる赤ちゃんの数は62人減っていて、亡くなられた方が8人

増えているという状況である。能美市の人口が増えているのは、能美市から転出する人より転入する人の数が多いからで、社会増によるものである。一年間を比較しても、転入された方は一昨年よりも 230 人多い。転出された方もあるが、社会増が能美市の人口増の大きな要因である。

そして心配事は子どもの数が減っているということ。今年 4 月に市内の 8 つの小学校に入学した児童数は 468 人で、3 月に卒業した児童の数は 551 人。児童数が減少している。中学生もやはり入学する生徒数よりも卒業する生徒数が多く、生徒数は減少している。少子化というのが能美市にとっても大きな課題になっている。

能美市も将来的には人口減少問題に直面していく。それから高齢化、人手不足、自然災害の脅威、アセットマネジメントが能美市を取り巻く現状としてある。2019 年度の予算については、これらの課題に対して、5 本の施策と 2 本の方針の柱の全てで移住定住の促進をさせるというのが能美市の方針である。

その施策の中で安全安心のまちづくりについて詳しく説明すると、自然災害だけでなく、火事も多い。昨年 12 月には市内で二人の方が亡くなる大きな火災が発生しました。火事に対してもしっかりと強化していかなければならないということで、新たに機能別消防団というものを立ち上げて強化していく。市民の皆様方にもしっかりと防災や減災に対する意識や知識を高めていって頂こうと、防災センターでいろいろなイベントや学習会を開催したり、出前講座も積極的にやるようにしている。また、河川の護岸を更に強化させ、河川の底の体積土砂の除去をさらに進めていかなければならない。

安全安心のまちづくりは 2 本柱がある。災害や事件、事故からどうやって守っていくかということがひとつ。もうひとつは市民の皆様方に安全安心、快適に暮らしてもらいたいということ。これは、高齢者も障がいのある方も介護されている方も、子ども達も、そして最近増えている外国人も、全ての皆さんに安全安心で快適に暮らしてもらうようなまちづくりをしていこうというもの。

まず、共生社会の実現に向けて、先ほど申し上げたような全ての方々を対象として我が事丸ごと地域づくり推進事業というものを行っている。人のことを自分の事のように捉えて積極的に活動していくことを能美市としてサポートするもの。もうひとつは、あんしん相談センターで、これまでは高齢者の方を主体に相談を受け付ける窓口だったが、例えば障がいのある方や介護をしている方が市の窓口で相談に来られたときに、いろいろな部署をまわらなくてもワンストップで相談できるような窓口として、あんしん相談センターを開設している。昨年、ふれあいプラザでモデルケースとしてスタートさせいろいろ検証をすすめ、今年から辰口地区、根上地区と合わせて 3 カ所であんしん相談センターを開設し、いろいろな相談を受け付けできるように取り組んでいる。能美市では 24 時間 365 日いつでも電話でお答えできるような体制も整えている。それから、外国人の方のケアもしっかりしていかなければならないということで、国際交流協会が設立された。これは寺井地区公民館に事務所を構えている。

次に、介護に関する施策については、要介護3以上の方を対象に慰労金を支給したり、必要な介護用品の購入費の一部を助成している。また最近、認知症の方が多くなり、認知症の方が徘徊するケースも多くなってきているということで、どこを徘徊しているのかということ把握できるような装置を使って、速やかに探せないかということを考えている。さらに、徘徊されている認知症の方に市民から声がけをしてもらえるように、来月、徘徊者に対する声がけをするというスマートフォンのアプリを使った模擬検索体験の機会を設ける。ぜひ、ご参加をお願いしたい。また、最近市内でも多くなっているのが医療的ケア児で、今5名ほどいらっしゃる。実際、お会いしたが、ご家族も大変な思いをされている。なんとか子どもさん、親御さんに能美市内で安全安心、快適に過ごしていただけるよう、サポートに取り組んでいる。

これらは、市役所だけでやれることではなく、今日ご出席いただいた市民の皆様、そして皆様が結集して取り組んでいただく地域力で、成し得ることだと思っている。この市民力、地域力を高めていくために、市民の皆様が能美市のことを好きになっていただける、誇りに思ってもらえる、また能美市の取り組みを知っていただくことが大切だと思っている。ふるさと愛を醸成することで市民力地域力が高まり、能美市勢が発展していくと考えている。皆様方のご理解とご協力をお願いしたい。

【意見交換】

1、ひとり暮らしの高齢者への支援について

(市民)

- 10年の在宅介護をした後にひとり暮らしになった。2年前に、私が病気になって病院へ行った時に、親族がいないからと納得のいかない治療を受けた。現在も定期的に病院へ通っている。高齢者支援センターへ相談に行くと、何もできないと言われ、病院へ電話をかけてもらったただけだった。病院では、なぜ親族がいないのかとしつこく聞かれた。頼れる親族が誰もいないからということで納得のいく治療が受けられなかった。結婚したからと言って必ず子供が生まれると限らないわけで、結婚しない方もいる。こんな人がたくさん出てくるようになると思うので、行政の方で考えてもらいたい。新聞に高齢者身元保証サービスというものが出ていたが、これによると170万円払って契約したとある。とてもそんな大金は払えない。ひとり暮らしの年寄りに何かあった時に、相談にのってもらえるとか、手を差し伸べてもらいたい。

(市長)

- 能美市に限らず、全国的に事例が増えてきている。このようなケースのために国として成年後見人制度があって、説明する機会も設けられている。市内にある寺井あんしn

相談センター、根上あんしん相談センター、又は、辰口あんしん相談センターに出向いて、相談して頂きたい。

2、祝い金の支給について

(市民)

- 5月に介護保険料の負担について通知が来た。その中に75歳で介護保険制度の要介護(支援)の認定を受けたことがない場合に祝い金が支給されると書いてあった。75歳以上で要介護認定を受けたことがない人はもっと偉いのではないかと思う。健康を考えてそれなりの努力をして介護保険サービスを使わないでいる人を認めて、75歳以上の人にも還元というか、500円でも2,000円でもいいから、ご褒美があれば励みになるのではないかと思う。

(市長)

- 85歳、95歳、100歳、最高齢などの人に祝い金をお渡ししている。毎年、要介護認定を受けていない人にお祝い金をお渡しすることも励みになるのかもしれないが、節目にお祝いをするということにしている。

(市民)

- 高齢者にとって5年毎というのは長い。

(市長)

- 健康寿命を延ばして長生きをしてもらおうという考えの中で、何かを差し上げることだけでなく、菜の花の会の方と話す機会や、集まって笑って話し合う機会があるということの方が貴重ではないかという思いをしている。何かお祝いがあった方がいいだろうか？

(市民)

- 100万歩、200万歩を歩いた時には風船などが頂けるなど、プレゼントが励みになる。

(市長)

- 「貯筋(ちょきん)通帳」の取り組みのことですね。貴重なご意見を頂いた。

3、ほっとあんしんサロンの継続について

(市民)

- ほっとあんしんサロンを月に1回、ふれあいプラザで行っているが、遠いからという理由で、根上や辰口のそれぞれの地区の開催希望を聞くが、会場や人手の問題がある。相談したい、話したいと思っている人がいるという事実を受け止めて、困っている人が相談することで心を落ち着けて介護などに取り組んでもらえるように、対応したいと思っている。存続させることが大切なので、社会福祉協議会や市とも相談していきたい。活動を知らない人がほとんどでないかと思っている。会の予算でチラシを作って配ったりしているが、何かやろうと思うとお金の問題が出てくる。その面でのご支援や、ほっとあんしんサロンがあるということを必要としている方にどう届けるか名案がないので、一緒にできることを考えて頂きたい。自分たちでできることはやっていくが、外部からの協力も必要になってきている。
- 相談については、プライバシーのことがあるから、本人の相談したいという意思が大切。そして、こちらからは助けますよというメッセージを出すことが大切。民生委員や町会長に対する人権やプライバシーなどの講習を丁寧にやっていただくことが大切だと思う。地域での介護が本質的に有効に行えるのではないかと思う。

4、ひきこもりの方への支援について

(市民)

- ひきこもりで悩んでいる家族の方もたくさんいる。そのような方に支援などはあるのか。

(市長)

- ひきこもりについてはいろいろな事例があると思っている。例えば、生活苦が原因の場合もある。能美市では専門で生活困窮者の方々の相談に乗れる体制など、悩みに対する専門的知識を持ったスタッフによる相談体制の整備に取り組んでいる。また、登校拒否の児童生徒も登校できるように施設の整備もしている。また、最近市内で子ども食堂の取り組みもある。登校拒否の児童生徒が来て、みんなとの食事が楽しいと感じて登校できるようになった例もある。障がいのある子どもだけを対象とした子ども食堂もある。親御さんも一緒に参加されていて、同じ悩みを持った方々が話し合うことができる機会となっている。市としては専門的に相談できる体制を整えることや、ひきこもりになっている方が社会へ出て行く機会を増やし、ひきこもりの人達が少なくなるように取り組んでいきたいと考えている。

(市民)

- ひきこもりになっている方が、出掛ける気持ちになればよいが、なかなかそこまでいかない。

(市長)

- 十分とはいえないかもしれないが、取り組んでいく。

5、移送サービスと市立病院の今後について

(市民)

- 両足が麻痺しているのでシルバーカーを使っているが、雨天では病院にも買い物にも行けない。寺井病院ならタクシーが割安で乗れるサービスがあるらしいが、このようなものがあればいい。
- 市立病院は今後どうなるのか？

(市長)

- 地域ごとに介護サービス施設等が持っている車を利用して、今のようなケースでお困りの方を移動面で支援できないか検討を始めていますが、民営圧迫や事故の際の補償の問題など、クリアしなければならない課題がある。モデルケースで始めようとしているので、もう少し時間を頂きたい。
- 市立病院の件は新聞でも取り上げられたが、一番の要因は患者数が減っていること。医師全体の数が減ってきていて、市立病院の規模の病院ではすぐに医師を増やしてもらえないという実情がある。これに対する取り組みをしているがなかなか実現しないので、今は、芳珠病院との地域医療連携推進法人をつくれなかと取り組みを始めている。救急患者を受け入れられるのは芳珠病院と市立病院で、連携することで診療科の患者さんが不自由なく通えるようにできないか検討している。また、慢性期、回復期などによって病院での病床が割り当てられているため、市内の実情をしっかりと把握して、芳珠病院と共同して地域医療を守るための検討も始めている。

(市民)

- 市の東部の方から通うとなると電車の踏切を超えるのは大変だから、踏切の手前に病院を移せないか。

(市長)

- 新しい病院を建てるには100億円かかると言われている。先ほど申し上げたが、学

校も古くなっている、水道管も古くなっているのが現状で、病院を先に建てられるかという難しいことをご理解いただきたい。

6、介護に対する意識改革について

(市民)

- 私は、今年82歳になる。ひとり暮らしで、母を7年間、妻を11年間介護した。妻が亡くなって10年経った。介護自体はつらいと思ったことは無い。地域や隣近所と仲良くしていることによっていろいろな面で配慮してもらえた。介護する相手を愛することができるかで介護の苦勞が違ってくると思う。

【市長閉会あいさつ】

会員を増やしていくことが皆さんの活動においてとても重要なことだと思うし、課題だと思う。皆さんの活動をもっと紹介し、つらいことばかりでなくこんないいこともあるということも紹介していくこと、また、紹介する方法も紙だけ文字だけではなく、写真を使ったり、介護している若い方達にも皆さんの活動を知ってもらえるように、市のホームページやSNSで幅広く深く伝えていくことが大切。市や社会福祉協議会と相談しながら取り組みをして、介護者の心のケアにつながるように支援していきたい。今日はありがとうございました。